

《2016年度学年別講義内容》

《1 年》

文 献 講 読 (黒田 裕)

I 講義内容

この授業では、神学的思考方法に慣れるために、いくつかの基礎的な文献と一緒に読む。授業の方法としては、あらかじめ指定された箇所を読み、その内容を要約して発表し、分かち合うゼミ形式で行う。

II 評価方法

各自の読書発表と授業参加度、学期末の小レポートで評価する。

III テキスト

*速水敏彦『新約聖書 わたしのアングル』聖公会出版、1985年

*A.リチャードソン『キリスト教教理入門』S.H.パウルス訳、日本聖公会出版部、1968年
↑上記2冊は最初の授業時に神学館で購入する。

*D.ボンヘッフアー『共に生きる生活』森野善右衛門訳、新教出版社、2004年

英 書 講 読 (岩城 聰)

I 講義内容

A Brief History of the Episcopal Church, D. L. Holmes, The Trinity Press International, 1993 を読みながら、訳文も作成する。また必要に応じて英語の基本的事項を学ぶ。

II 成績評価

各自の読書発表と授業参加度、または学期末テストで評価する。

III 使用テキスト

上記文献を神学館で用意するので、購入すること。

IV 参考文献

*マーク・チャップマン著、岩城聰監訳『世界聖公会物語』(2013, かんよう出版)

*八代崇『新カンタベリー物語』(聖公会出版)

—入手できない場合には、館長に申し出ること。

*紀平英作編『アメリカ史』(山川出版社)

V 英文法・英文読解に関する参考文献

適宜指定するが、以前に使ったことのある高校レベルの文法書、英文解釈の参考書などを用意しておくこと。その他、プリントを準備することもある。

哲 学 入 門 (菊地 伸二)

I 講義内容

一年の前半（2学期の途中まで）は、哲学の誕生から現代に至るまでの流れ、すなわち哲学の歴史をたどる形で進めていく。イエスの誕生以前にギリシアで産声をあげた哲学は、紀元後になるとローマ帝国においてキリスト教と出会い、ここに哲学と神学との関係が生まれることになる。近代に入ると哲学と神学は離れていくように見えるが、哲学がキリスト教から受けた影響（またその逆の影響）は計り知れないものがある。哲学とキリスト教は今日に至るまで密接に関わりながら歩んできたのであり、哲学について学ぶことはキリスト教をより深く学ぶことにつながる。

一年の後半（2学期の途中から）は、哲学および神学において論じられてきた主要なテーマ（たとえば自由の問題や悪の問題等）を取り上げるとともに、その現代的意義についても検討する。

基本的に講義形式で行うが、受講生といっしょに考えていく機会としたい。

II 成績評価

授業への参加度、各学期末に行う筆記試験によって評価する。

III テキスト・参考文献

- *今道友信『西洋哲学史』講談社（講談社学術文庫）、1987年
それ以外のものについては授業中に提示する。

旧 約 入 門 (勝村 弘也)

I 講義内容

1 学期：旧約の舞台となった地域の風土と歴史を学びつつ、旧約の全体の構成を概観する。続いてトーラー（律法）について、その成立の歴史を概観しながら、いくつかの箇所についてその内容を解説する。聖歌の源泉となっている詩篇についても少し触れる。

2 学期：紀元前8世紀中頃以降に登場した預言者について、当時の世界状況とからめて論じる。アモス書、イザヤ書から代表的なテキストを取り上げ読み解く。

3 学期：詩篇の研究の歴史を概観しながら、いくつかの詩篇を読み解いてゆく。箴言についても概観する。

II 成績評価

数回のテストとレポートを総合して評価する。

III テキスト、参考文献

【教科書】

- *勝村弘也著『旧約聖書に学ぶ』日本キリスト教団出版局、1993年

【参考文献】

- *並木浩一／荒井章三編『旧約聖書を学ぶ人のために』世界思想社、2012年
- *その他、授業中に指示する。

新約入門 (嶺重 淑)

I 講義内容

新約聖書に含まれる各文書の成立背景、全体構成、思想的特質等について学びながら、新約聖書全体の内容を概観していく。1学期は福音書、2学期はパウロ書簡、3学期はその他の文書を扱う予定。

II 成績評価

各学期末試験、レポート、発表等によって総合的に評価する。

III テキスト、参考文献

* 原口尚彰著、『新約聖書概説』教文館、2004年

* 大貫隆・山内眞監修『新版 総説 新約聖書』日本基督教団出版局、2003年

教会史 (菊地 伸二)

I 講義内容

古代から現代までの2000年におよぶ教会の歩みを概観する。基本的に講義形式で行う。

II 成績評価

授業への参加度、各学期末に行う筆記試験によって評価する。

III テキスト・参考文献

* 菊地榮三・菊地伸二『キリスト教史』教文館、2005年

それ以外のものについては授業中に提示する。

礼拝学 I (吉田 雅人)

I 講義内容

教会共同体が献げる礼拝の意味・内容について考え、祈祷書・礼拝式文形成の歴史を概観する。基本的に講義形式で行う。

II 評価方法

記述式テスト、ゼミの準備を含めた参加度で評価する。

III テキスト・参考文献

<必ず入手すること>

* 『1938年日本聖公会祈祷書』→入手できない場合は館長まで申し出ること。

* 『1959年日本聖公会祈祷書』→入手できない場合は館長まで申し出ること。

* 『1990年日本聖公会祈祷書』(2013年 改訂第2版第1刷)

* 『改正増補 日本聖公会祈祷書解説』、日本聖公会管区事務所、1994年

* 森 紀旦『主日の御言葉－教会暦・聖餐式聖書日課・特祷』聖公会出版、2000年

* 今橋・竹内・越川監修『キリスト教礼拝・礼拝学事典』日本基督教団出版局、2006年

<参考文献>

- * J.A. ユングマン 『古代キリスト教典礼史』 石井祥裕訳、平凡社、1997年
- * J.F. ホワイト 『キリスト教の礼拝』 越川弘英訳、日本キリスト教団出版局、2000年
- * W. ナーゲル 『キリスト教礼拝史』 松山與志雄訳、教文館、2000年
- * 土屋吉正著 『典礼の刷新』 オリエンズ宗教研究所、1985年、
- * E. フォーリー 『時代から時代へ』 竹内謙太郎訳、聖公会出版、2004年
- * 森 讓著 『信仰を生活する』 『続・信仰を生活する』 聖公会出版
- * *The Study of Liturgy (Revised Edition)* , Editors; C. Jones, G. Wainwright, SPCK
- * *Commentary on the American Prayer Book*, Marion J. Hatchett, Seabury Press
- * *The New SCM Dictionary of Liturgy and Worship*

Edited by Paul F. Bradshaw, SCM Press, 2002

ギリシャ語 I (高地 敬)

I 講義内容

新約聖書を原典で読むために必要な文法を習得する。

II 成績評価

各学期末のテストと授業への取り組み(姿勢)による。

III テキスト

- * J.G. メイチェン著 『新約聖書ギリシャ語原典入門』 田辺滋訳、新生宣教団、2000年

聖書内容試験 I (黒田 裕)

I 目標

旧約聖書と新約聖書の各書を熟読し、全体の概要を把握すること。

II 成績評価

試験の平均点と「聖書を読む」姿勢の総合評価を含めて、平均点50点以上を合格とする。

III テキスト

- * 『新共同訳聖書 旧約聖書続編付』(日本聖書協会)を用いる。

注) 各講義の使用文献・参考文献のうち絶版になっているものもあります。

図書館・先輩等に借りる、あるいは古書店で購入してください。

古書店はインターネット上でも検索・注文できますので、下記の参照してください。

スーパー源氏 : <http://www.sgenji.jp/>

日本の古本屋 : <http://www.kosho.or.jp/servlet/top>

古書店つのぶえ : <http://www.tsunobue.jp/>

アマゾン(和洋書/古書) : <http://www.amazon.co.jp/>

《 2 年 》

旧約釈義 -2・3年共通 (勝村 弘也)

I 講義内容・形式

- 1 学期、創世記、出エジプト記。2 学期、箴言、詩篇、サムエル記。3 学期、預言書。
1 学期では、最初に旧約原典、古代訳の特徴について概説する。さらに英語やドイツ語、日本語に訳した時の歪みについて解説する。次に創世記一章、十戒を取り上げる。
2 学期の箴言では、岩波版の拙訳を使用する。

II. 講義形式・成績評価

講義と受講者による研究発表を併用する。発表内容とともに各学期末に提出するレポートによって成績を評価する。

III. テキスト・参考文献

- *ゲルハルト・リートケ著、安田治夫訳『生態学的破局とキリスト教』新教出版社、1989年
- *シュタム、アンドリュウ著、左近淑、大野恵正訳『十戒』新教出版社、1970年
- *B・S・チャイルズ著、近藤十郎訳『出エジプト記下』日本基督教団出版局、2010年
- *『新共同訳旧約聖書注解 II』日本基督教団出版局、1994年
- *『旧約新約聖書大事典』教文館、1989年
- *関谷定夫著『図説 旧約聖書の考古学』ヨルダン社、1986年

新約神学 -2・3年共通 (前川 裕)

I 講義内容

新約聖書文書の神学思想について、思想の歴史的成立順序に従って学ぶ。教科書の内容のまとめを受講生に発表していただき、それをもとに討議を行って理解を深める。参加者の積極的な取り組みに期待する。

II 成績評価

各学期末の試験および受講への取り組みといった平常点を総合して評価する。

III テキスト、参考文献

【教科書】

- *E・ローゼ『新約聖書神学概説』日本キリスト教団出版局、1982年（オンデマンド2006年）。（講義のテキストとして使用するので各自入手すること。旧版・オンデマンドいずれでも差し支えない）

【参考文献】

- *講義中に適宜提示する。

教 理 学 I (岩城 聰)

I 講義内容

教理学の方法論、基本的な考え方を分かち合い、その後、歴史的に形成されてきた教理学の基本問題について理解を深める。

主要項目：①教理学とは何か

②何のために教理学を学ぶのか（考え方・学の方法論）

テキストとコンテキスト／相関の方法（二極的方法）／聖書と理性と伝統など

③教理学の諸問題

神論（三一論、キリスト論、予定、啓示）／創造論（Imago Dei、墮罪論）／救済論／聖霊論（教会論）／終末論（神の国論）／社会宣教と福音伝道／科学と宗教（環境問題を含む）など

II. 講義形式・成績評価

授業は基本的に講義とするが、適宜学生の研究発表を求める。評価は、授業への参加度、各学期末の筆記試験（記述）に基づいて行う。

III. 必読文献・参考文献

<必読文献>

* A・E・マクグラス『キリスト教神学入門』神代真砂美訳、教文館、2002年

* 『1998年ランバス会議報告・決議・牧会書簡』日本聖公会管区事務所、2001年

<参考図書>

* 佐藤敏夫『キリスト教神学概論』新教出版社、1994年

* 『教義学講座1・2・3』日本基督教団出版局、1970年

* J・ペリカン『キリスト教の伝統－教理発展の歴史 1～5巻』鈴木浩訳、
教文館、2006～2008年

* J.N.D ケリー『初期キリスト教教理史 上下』一麦出版社、2010年

* 岩城聰『聖公会の公会問答－信仰の手引き』聖公会出版、2013年

聖 公 会 論 (岩城 聰)

I 講義内容

聖公会のルーツを探ると共に、その発展の節目、節目を神学的に整理し、現代に至る聖公会の特質を明らかにする。

<主な項目>

アングリカニズムの源流（ケルトの霊性、ベネディクト会の伝統、聖オーガスティン、修道士会の歴史）／宗教改革の背景（ロラード派、反聖職者主義など）／イングランド宗教改革／ヴィアメディアの神学／ジョン・ウェスレーのメソジスト運動／19世紀のアングリカニズム（キリスト教社会主義、オックスフォード運動、ゴア）／アメリカ聖公会の成立／リベラル・カトリシズム／テンプル、ラムゼー／現代のアングリカニズム

II. 講義形式・成績評価

授業は基本的に講義とするが、適宜、学生の研究発表や文献講読を行う。評価は、授業への参加度、各学期末の筆記試験（記述）に基づいて行う。

III. 必読文献・参考文献

<必読文献>

- *塚田理『イングランドの宗教』教文館、2004年
- *八代崇『新カンタベリー物語』聖公会出版、1987年（絶版）
－入手できない場合には、館長に申し出ること。
- *マーク・チャップマン『聖公会物語』かんよう出版、2013年
- *塚田理『聖公会の伝統を探る』聖公会出版、2012年
- *西原廉太『聖公会が大切にしてきたもの』聖公会出版、2010年
- *西原廉太『続・聖公会が大切にしてきたもの』聖公会出版、2012年

<参考図書>

- *J.R.H.ムアマン『イギリス教会史』八代 崇他訳、聖公会出版、1991年
- *『宗教改革著作集 11、12』教文館、1984年、1986年（特に巻末の解説）
- *八代崇『イギリス宗教改革史』創文社、1979年
- *W・J・ウルフ『聖公会の中心』西原廉太訳、聖公会出版、1995年
- *『1998年ランベス会議報告・決議・牧会書簡』日本聖公会管区事務所、2001年
- *岩城聰『聖公会の公会問答－信仰の手引き』聖公会出版、2013年

日本キリスト教史（大塚 勝）

I 講義内容

フランシスコ・ザビエル渡来から1945年までのキリスト教史を概観する。

1学期は、16世紀の日本の状況を含めて、ザビエルの渡来以降のキリシタン史を学習する。2学期前半は、主として幕末・明治以降のキリスト教史。2学期後半から3学期は、主として日本聖公会史を学習する。時間的に余裕があれば、戦後史も学ぶ。

日常の授業資料は原則として担当教員が用意するが、時には学生に準備してもらうことがある。

なお、2015年度から、フィールド・トリップ(現地研修)「京都のキリシタン遺跡を巡る」は実施していない。その研修方法について再検討しているところである。

II 評価方法

授業における発表と試験又はレポートによって評価する。

III テキスト・参考文献

- *参考文献については、授業の中で適宜紹介する。

礼 拝 学 II (吉田 雅人)

I 講義内容

日本聖公会現行祈祷書に則して、「教会暦」「朝夕の礼拝」「み言葉の礼拝」「嘆願」「入信の式」および「葬送の式」について学ぶ。方法論的には礼拝式文の歴史及び現行祈祷書の内容を概説する。基本的に講義形式で行う。

II 評価方法

記述式テストまたはレポートで評価する。

III テキスト・参考文献

- * 『1938年／1959年／1990年日本聖公会祈祷書（改訂第2版第1刷）』
 - * 『み言葉の礼拝 第2版』日本聖公会管区事務所、2011年（ダウンロードできる）
 - * K.H.ビーリッツ『教会暦-祝祭日の歴史と現在』松山與志雄訳、教文館、2003年
 - * 『聖ヒッポリュトスの使徒伝承 B.ボットの批判版による初訳』土屋吉正訳、オリエンズ宗教研究所、1987年
 - * P.F.ブラッドショー『初期キリスト教の礼拝』荒瀬牧彦訳、日本キリスト教団出版局、2006年
- その他、適宜紹介する。

ギリシャ語 II (菊地 伸二)

I 講義内容

ギリシャ語 I の続き。文法書の残りの部分を学んだ後、新約聖書本文（「ヨハネの手紙一」「マルコによる福音書」を予定している）を講読する。

II 成績評価

文法については筆記試験を行う。聖書本文については授業への参加度を重視する。

III テキスト、参考文献

文法：J.G.メイチェン著『新約聖書ギリシャ語原典入門』田辺滋訳、新生宣教団、2000年
新約聖書ギリシャ語テキスト：以下の三書のいずれでも良い。

- * *The Greek New Testament*, 4th edition, United Bible Societies, 1993、
- * *Novum Testamentum Graece*, Nestle-Aland, 27th edition, 1994、
- * *Novum Testamentum Graece*, Nestle-Aland, 28th edition, 2012、

臨床牧会訓練 (日本バプテスト病院)

I 講義内容

同志社大学大学院神学研究科実践神学研究演習を履修する同志社大学神学部の学生と共同で、日本バプテスト病院で行う。毎週1回、同病院に通い、オリエンテーションを十分に受けた上で病床訪問し、他者との関わりのある方を実践とその後の振り返りを通して学んでいく。終末医療、看護などについての講義もある。

的確、かつ真実な援助は決して自然発生的に実現するものではない。特に人間の危機的状況に対しての援助は状況判断の正確さ、求められている援助の内容の把握、必要な関連集団の理解、援助の方法の判断、そして深い精神的思慮に基づく他者への関心が必要とされる。その実現を理想として、このクラスは教育の場を日本バプテスト病院の協力により病院内に置き、患者への援助表現としての訪問をめざしてすすめる。スーパーバイザーの指導の下に非構造的な教育を基本とする。「牧会的」援助者は医療従事者ではないが、患者の「心のニード」に対して医療関係者との密接な協力関係を得て果たすべき重要な役割を担う。そのためにも、医療施設である病院を良く理解すること、患者が置かれているさまざまな心理的状況にたいして繊細な心を持つこと、自分の心の動きを的確にとらえて必要な姿勢を組むことなど共に考え学ばなければならないことは多い。医師、看護婦、ケースワーカーなど、専門家の講義を必要に応じて計画する。

II 成績評価

授業参加度、レポート、会話記録提出度等による。

III 参考文献

- * 関田寛雄他編『総説 実践神学』日本基督教団出版局、1989年
- * 長谷川浩編『行動科学と医療—行動保健医療の実際・電話相談、HIV カウンセリング、死の臨床を例として—』弘文堂、1991年
- * ジェームス・ヒルマン著、樋口和彦訳『内的世界への探求』創元社、1990年
- * 三永恭平『こころを聴く』日本基督教団出版局、1986年
- * ゴードン・C. ハンプリー『新・電話カウンセリング』一麦出版社、1997年
- * 工藤信夫著『援助者とカウンセリング』いのちのことば社、1992年
- * D.アウグスバーガー著『親身に聞く』すぐ書房、1988年
- * 三永恭平他『現代キリスト教カウンセリング、1-3巻』日本基督教団出版局、2002年

聖書内容試験 II (黒田 裕)

I 目標

新約聖書の残りの各書を熟読し、全体の概要を把握すること。1学期末まで。

II 成績評価

試験の平均点と「聖書を読む」姿勢の総合評価を含めて、平均点 50 点以上を合格とする。

III テキスト

- * 『新共同訳聖書』(日本聖書協会)を用いる。

《 3 年 》

旧約釈義 -2・3年共通 (勝村 弘也)

I 講義内容・形式

- 1 学期、創世記、出エジプト記。2 学期、箴言、詩篇、サムエル記。3 学期、預言書。
1 学期では、最初に旧約原典、古代訳の特徴について概説する。さらに英語やドイツ語、日本語に訳した時の歪みについて解説する。次に創世記一章、十戒を取り上げる。
2 学期の箴言では、岩波版の拙訳を使用する。

II. 講義形式・成績評価

講義と受講者による研究発表を併用する。発表内容とともに各学期末に提出するレポートによって成績を評価する。

III. テキスト・参考文献

- *ゲルハルト・リートケ著、安田治夫訳『生態学的破局とキリスト教』新教出版社、1989年
- *シュタム、アンドリュウ著、左近淑、大野恵正訳『十戒』新教出版社、1970年
- *B・S・チャイルズ著、近藤十郎訳『出エジプト記下』日本基督教団出版局、2010年
- *『新共同訳旧約聖書注解 II』日本基督教団出版局、1994年
- *『旧約新約聖書大事典』教文館、1989年
- *関谷定夫著『図説 旧約聖書の考古学』ヨルダン社、1986年

新約神学 -2・3年共通 (前川 裕)

I 講義内容

新約聖書文書の神学思想について、思想の歴史的成立順序に従って学ぶ。教科書の内容のまとめを受講生に発表していただき、それをもとに討議を行って理解を深める。参加者の積極的な取り組みに期待する。

II 成績評価

各学期末の試験および受講への取り組みといった平常点を総合して評価する。

III テキスト、参考文献

【教科書】

- *E・ローゼ『新約聖書神学概説』日本キリスト教団出版局、1982年（オンデマンド2006年）。（講義のテキストとして使用するので各自入手すること。旧版・オンデマンドいずれでも差し支えない）

【参考文献】

- *講義中に適宜提示する。

教 理 学 II (岩城 聰)

I 講義内容

ルターなどの宗教改革期の著作、およびバルト、ティリッヒ、ブルトマンなど現代神学を中心に代表的な神学的著作を読み、理解を深める。アジアの神学者の著作も読む。

II. 講義形式・成績評価

授業は輪読あるいは演習形式。成績評価は、随時の発表・レポートによる。

III. 必読文献・参考文献

*H・ツァールント『20世紀のプロテスタント神学 上下』井上良雄監修、新教出版社、1998年

その他、適宜紹介する。

キリスト教倫理学 (シュペネマン・クラウス)

I 講義内容

現代社会が直面している問題をキリスト教の立場から判断できることを目的にして、キリスト教倫理学の根本的な概念と方法を紹介する。第1学期に主に生命倫理の問題、第2学期と第3学期に社会の代表的な問題を取り上げる。

II. 講義形式・成績評価

各学期末のレポートと授業中の発表によって総合的に判断する。

III. 参考文献

授業にプリントを配布し、各テーマについて参考文献を紹介する。

礼 拝 学 III (吉田 雅人)

I 講義内容

「聖餐式」「聖職按手式」について学ぶ。神学及び現行祈祷書の内容について学ぶ。また国際聖公会礼拝協議会が出したレポートも学びたい。

II 評価方法

記述式テストまたはレポート、ゼミの準備を含めた参加度で評価する。

III テキスト・参考文献

*『1938年／1959年／1990年日本聖公会祈祷書(改訂第2版第1刷)』

*P.F.ブラッドショー『初期キリスト教の礼拝』荒瀬牧彦訳、

日本キリスト教団出版局、2006年

*W.R.クロケット『ユーカリスト』後藤務訳、聖公会出版、2014年

*聖公会－ローマ・カトリック教会国際委員会『最終報告』

その他、適宜紹介する。

説 教 論 (黒田 裕)

I 講義内容

説教作成の方法を、理論的かつ実践的に学んでゆく。年間の前半は、説教の歴史、説教論をめぐる諸問題について考えながら説教作成の基本的な方法を学ぶ。前半で学んだことを踏まえ活かしながら、後半は説教演習を行っていく。

II 講義形式・評価方法

授業は、テーマによって学生の発表形式もしくは講義による。評価は授業への取り組みによって行ない、とくに年度の後半では、演習での発表の内容によっておこなう。

III テキスト・参考文献

- * D. ボンヘッファー『説教と牧会』森野善右衛門訳、新教出版社、1975年
 - * 関田寛雄『聖書解釈と説教』日本基督教団出版局、1980年
 - * 関田寛雄『「断片」の神学—実践神学の諸問題』日本基督教団出版局、2005年
 - * エドワーズ、Jr., O.C. 「聖公会の説教とは？」(浜屋憲夫訳)、ウイリアムス神学館紀要『ヴィア・メディア』第2号、1998年
- その他は授業中に提示する。

牧 会 学 (吉田 雅人)

I 講義内容

- 1 学期：「牧会とは何か」についてテキストを中心に学ぶ。
- 2 学期：祈祷書の牧会諸式「懺悔の式」「聖婚式」「誕生感謝の式」「病人訪問の式」について、歴史及び現行祈祷書の内容を概説し、実践的問題について学ぶ。
- 3 学期：「法憲法規 (浦地司祭の特別講義)」と牧会実務について学ぶ。

II 評価方法

記述式テストまたはレポート、ゼミの準備を含めた参加度で評価する。

III テキスト・参考文献 (※はすぐ使用する)

- ※ H.J.M. ニューウェン『傷ついた癒し人』西垣・岸本訳、日本キリスト教団出版局、
- ※ ケネス・リーチ『牧者の務めとスピリチュアリティ』竹田眞監訳、石井智子訳、
聖公会出版、2004年
- * 日本聖公会管区事務所『日本聖公会法憲法規』日本聖公会管区事務所、
- * E.H. ピーターソン『牧会者の神学』越川弘英訳、日本キリスト教団出版局、2003年
- * W.H. ウィリモン『牧師』越川弘英・坂口清音訳、新教出版社、2007年
- * W.H. ウィリモン『牧会としての礼拝』越川弘英訳、新教出版社、2002年
- * 飯田徳昭『司牧のよりどころに』聖公会出版、1996年
- * 森 讓『信仰を生活する』『続・信仰を生活する』聖公会出版
- * J.T. マクニール『キリスト教牧会の歴史』吉田信夫訳、日本キリスト教団出版局、1987年
- * 『1938年／1959年／1990年日本聖公会祈祷書 (改訂第2版第1刷)』
—その他適宜紹介する。

今日の宣教 (黒田 裕/吉田 雅人)

I 講義内容

日本聖公会の宣教を歴史的にたどることからはじめ、日本社会における今日的な宣教課題を理解しながら各自の課題を明確にしていく。基本的にはゼミ形式で行なうが、適宜講義を挿し挟むこともある。

II 評価方法

授業はゼミ形式で行なう。評価は授業への取り組みによって行なうほか、試験やレポートを課すこともある。

III テキスト・参考文献 (※はすぐ使用する)

<必ず入手すること>

<必ず入手すること>

* 西原廉太『聖公会が大切にしてきたもの』聖公会出版、2010年

* 西原廉太『続・聖公会が大切にしてきたもの—宣教の課題と可能性』聖公会出版、2013年
<絶版だができるだけ入手されたい>

* 塚田理『日本聖公会の形成と課題』聖公会出版、1978年

* J.G.デービス『現代における宣教と礼拝』岸本羊一訳、日本基督教団出版局、1968年
その他は授業中に提示する。

卒業小論文

I 小論文作成のねらい

神学館の学びを通して得たものを集成し、卒業後の自らの宣教・伝道・牧会活動の指針となりうる課題、あるいは卒業後継続して学ぶ研究テーマの端緒なる課題について、指導教授の指導のもとで作成する。

II 小論文提出資格

本科生は提出しなければならない。特別聴講生および教区派遣科目聴講生は、希望により提出することができる。

III 小論文作成要項

1. 内容・字数

* 内容はねらいに即したもの。

* 字数：20,000字以上40,000字程度まで

2. テーマの選定等

* 2年次年度末面接時に、館長に希望課題を報告する。

* 3年次5月中旬(連休明け頃)までに、課題を決定し、指導教授を決める。

3. 中間発表(レジュメを学生と教員分、用意すること。)

* 日 時：2016年12月1日(木) 15:00～

* 場 所：ニコルス館食堂

* 内 容：小論文のテーマ、ねらい、概要(目次)等を発表する。

4. 最終発表(内容を1,600字程度のレジюмеにまとめ、学生と教員に配布すること。)
- *日 時：2017年3月2日(木) 15:00～
 - *場 所：ニコルス館食堂
 - *内 容：小論文の内容について発表する。
5. 小論文の提出
- *提出期限：2017年3月16日(木) 正午まで(期限厳守)
 - *提 出 先：館長まで
 - *提 出 物：小論文(プリントアウトしたもの) 1部
小論文概要(1,600字まで) 1部
 - *提出にあたって：小論文概要はヴィア・メディアに掲載するため、ワードファイルで館長までeメールで送付すること。また小論文本体もプリントアウトしたものとは別に、eメールで送付すること。
(jmyoshida@hotmail.com)
6. 小論文作成にあたっての注意事項
- ① 引用等にあたっては、必ず脚注をつけること。
 - ② 脚注はページ末脚注。ワードの場合は「挿入」→脚注で操作できる。
 - ③ 論文作成や脚注の作り方(作法)について分からない場合は、担当教員に聞くか、例えば以下のような本を買って学ぶこと。
- *古郡廷治『論文・レポートのまとめ方』1997年、筑摩書房、他

《選 択 科 目》

ヘ ブ ラ イ 語 I (下田屋一郎)

I 講義内容

聖書ヘブライ語の初級文法を学ぶ。

II 評価方法

授業および課題への取り組みと学期末試験による。

III テキスト・参考文献 (※は必携推奨書)

* Thomas O. Lambdin, *Introduction to Biblical Hebrew*, Darton, Longman and Todd Ltd

* *Biblia Hebraica Stuttgartensia*.(BHS)

(すぐに使うわけではないが手許に置いてほしい)

<辞書> (いずれ必要になるので、どれか一つ持っているとうい)

* *The Brown-Driver-Briggs Hebrew and English Lexicon*, (Coded with Strong's Concordance Numbers), Hendrickson Publishers.(BDB)

* Koehler & Baumgartner, *The Hebrew and Aramaic Lexicon of the Old Testament*, Brill. (HALOT) (2巻本)

<参考文献>

- * E.Kautzsch, translated by A.E.Cowley, *Gesenius' Hebrew Grammar*, Oxford University Press.(GKC)
- * P. Joüon-T.Muraoka, *A Grammar of Biblical Hebrew*, Gregorian & Biblical Press (JM)
- * B.M.Waltke and M.O'Connor, *An Introduction to Biblical Hebrew Syntax*, Eisenbrauns. (WO)

ヘブライ語 II (下田屋一朗)

I 講義内容

ヘブライ語 I の続き、およびヘブライ語聖書 (BHS) 本文の講読。

II 評価方法

授業および課題への取り組みと学期末試験による。

III テキスト・辞書・参考文献

<テキスト>

- * 左近義慈・本間敏雄『ヒブル語入門[改訂増補版]』教文館
- * *Biblia Hebraica Stuttgartensia*.(BHS)

<辞書>

- * *The Brown-Driver-Briggs Hebrew and English Lexicon*, (Coded with Strong's Concordance Numbers), Hendrickson Publishers.(BDB)
- * Koehler & Baumgartner, *The Hebrew and Aramaic Lexicon of the Old Testament*, Brill. (HALOT) (2 巻本)

<参考文献>

- * E.Kautzsch, translated by A.E.Cowley, *Gesenius' Hebrew Grammar*, Oxford University Press.(GKC)
- * P. Joüon-T.Muraoka, *A Grammar of Biblical Hebrew*, Gregorian & Biblical Press (JM)
- * B.M.Waltke and M.O'Connor, *An Introduction to Biblical Hebrew Syntax*, Eisenbrauns. (WO)
- * 小林洋一編訳 『BHS のマフテアハ』ヨルダン社
- * E.ヴェルトヴァイン『旧約聖書の本文研究』日本基督教団出版局

ギリシャ語 III (菊地 伸二)

I 講義内容

新約聖書本文のうち、主日の福音書の箇所を中心に学ぶ予定をしている。ただし詳細については受講生と相談しながら決定する。

II 評価方法

授業への参加度を重視する。

III テキスト・参考文献 (※は必携推奨書)

新約聖書ギリシャ語テキストは、以下のいずれでも良い。

* *The Greek New Testament*, 4th edition, United Bible Societies, 1993,

* *Novum Testamentum Graece*, Nestle-Aland, 27th edition, 1994,

ラテン語 I (菊地 伸二)

I 講義内容

ラテン語の初歩から文法書に従って学ぶ予定をしている。できるだけ早くラテン語の著作に触れたいと考えているが、詳細については受講生と相談しながら決定する。

II 評価方法

筆記試験と授業への参加度によって評価する。

III テキスト・参考文献 (※は必携推奨書)

* 松平千秋、国原吉之助『新ラテン文法』東洋出版、1994年

ラテン語 II (菊地 伸二)

休 講

全 学 年 共 通

教会音楽 (辻 彩乃)

I 講義内容

毎日の礼拝で用いる聖歌やチャントを、伴奏がなくても正しく歌えるように練習します。それと並行して読譜のための基礎的楽典やソルフェージュ、旧約聖書の時代から現代までのキリスト教音楽史、聖歌の発展史、聖歌集に関する基礎知識などを学んでいきます。また、礼拝における聖歌の選び方を実践的に学びます。

II 成績評価

各学期末の試験、授業への参加度で評価します。

III テキスト・参考文献

* 『日本聖公会聖歌集』日本聖公会管区事務所、2006年(第2版が望ましい)

** 宮崎光『聖公会の聖歌—いのちを奏でよ』聖公会出版、2008年

聖書研究 (1~2学期) (黒田 裕・吉田雅人)

神学生が主体となって聖書の学びを進める。単なる聖書講解ではなく、御言葉を解釈する者と聴く者としての姿勢、また御言葉を聴いてこの世の人々に共感をもって伝えていく者としての姿勢を養う。今年度は「ヨハネによる福音書第5章18節b」から学ぶ。

実践神学特講 (3学期) (吉田雅人・黒田 裕)

通常の授業では取り上げられない課題について、神学生が主体となって学びを進める。具体的には「教会問答」を、①信仰論(信経/聖書/主の祈り)、② sacrament論、③教会論/ミニストリー論に分けて順次取り上げ、今年度は「信仰論(信経/聖書/主の祈り)」について研究する。具体的には教会問答の問2~4, 6~12,

教会実習 (吉田雅人・黒田 裕)

指導司祭の指導のもとに、派遣された教会における「神の宣教」(ミッシオ・デイ)に参加し、学び、教育され、将来の叙任された奉仕職(聖職)の働きに備える。

神学生に具体的に期待されることは、

1. 奉仕職とは何か、どのような生き方なのかを、指導司祭の背中(生き方、在りよう)を見て感じる事
2. 信徒、求道者の方々との関わり方や関係のあり方を、指導司祭の背中(生き方、在りよう)を見て感じる事
3. この世に仕えるものとしての教会のありようを、体験的に学ぶ事

である。神学生が実習教会の信徒の方から万が一「先生」と呼ばれても、そのことに違和感を感じ、自らが「仕える者」として召され、遣わされていることを体験的に学ぶことが期待されている。

神学生には「教会実習ノート」が配布され、それに必要事項を毎回書き込み、学期末に提出する。

1年生は土曜日の午後から日曜日の午後にかけて教会実習を行う。2・3年生は日曜日の朝から午後にかけて教会実習を行う。

夏期実習 (吉田雅人・黒田 裕)

宣教の現場の中で、人々との出会いを通して自らの生き方、信仰、自分自身に気づき、テキストからの学びとコンテキスト(文脈・状況)からの学びの統合を試みる。

今年度は、「聖公会生野センターにおける在日の人々への働き」、「西成区(釜が崎)における教会の働き」をテーマに実施する予定である。

《伝道師養成コース》

2016年度は休講。

<今年度休講の科目>

- 【1年次】 なし 【2年次】 なし 【3年次】 なし
【2・3年次】 旧約神学、新約釈義、 【選択科目】 ラテン語Ⅱ、